

持続可能な農業を

農地の荒廃が進み、水路などの維持管理も深刻な問題となっています。一方で若者や都市に住む人など多様な人材が農業・農村振興の担い手になる可能性も高まっています。遅まきながら政府も昨年3月の「食料・農業・農村基本計画」で、活力ある農業・農村には、従来の経営規模の大きな担い手だけでなく、**中小・家族経営などの多様な人材・主体の活躍**が必要であることを位置づけました。また、農業を含む多業で暮らしをつくろうという**若者を応援する法律**も施行されました。これまでの農業政策を見直し、多様なあり方を生み出していきたいと思います。



きめ細かな防災対策を

毎年どこかで大規模災害が起こるような事態になり、防災はますます大切な課題です。

危険箇所の対策だけでなく、高齢者など自力では避難できない人のための対策も大切な課題です。**一人ひとりの事情に対応できる避難行動要支援者の個別計画**を策定すべきと何度も私を含む複数の議員がそれを求めてきましたが、いまだに町長から取り組むという答弁はありません。ハードだけでなくソフトの防災対策も求められています。



□光吉 準 (ひとし) プロフィール

1956年(S31年)生まれ。芳野小学校、鏡野中学校、津山高校、岡山大学法文学部法学科卒。2011年、両親の介護のため帰郷。1995年より岡山市議・県議のスタッフ、「自治体議員政策情報センター」幹事などをつとめる。
2017年、鏡野町議会議員に当選。文教厚生常任委員会副委員長、議会運営委員会委員長、広報特別委員会委員長をつとめる。
2020年10月議員を辞職。

□編集後記

厳しい寒さの冬となりました。先日は水道管がやられて水が吹き出しました。水道屋さんも大忙しという感じでしたが、助かりました。

町内のあちこちを訪れては、色々な話に耳を傾ける日々です。しかし、どこを訪れてもせせらぎの音が聞こえ、水の豊かな町なのだと感じる毎日です。もちろん、苦勞して水路を引いた先人の努力があつてのことなのですが。

□光吉ひとし後援会 連絡先
〒708-0335
岡山県苫田郡鏡野町真加部 379
T&F 0868-54-2345
h-mitsuyoshi@wi.kualnet.jp
<http://kagamino.org>

光吉ひとし後援会 [討議資料]

コロナ禍の危機をのりこえ 安心して暮らすために

新型コロナウイルス感染症拡大のなかで2021年を迎えました。不安を抱えている皆さまにお見舞いを、医療・福祉など社会の基礎を支えて下さっている皆さまに感謝を申し上げます。

何が本当に大切なことなのか、それが問い直される日々が続いています。それは政治とは何なのかを問い返すことでもあります。

危機を乗り越えるために、医療制度や保健所、介護や教育はどうあるべきか。非正規雇用やひとり親世帯など社会的弱者を守るための政治はどうあるべきか。
エスディジーズ
SDGsの掲げる「誰一人取り残さない」という考え方を生かす政治が求められています。

2021年、新しい政治を作り出し、ともに希望を創り出していきましょう。安心して暮らすために。

住みやすい町には人が集まる

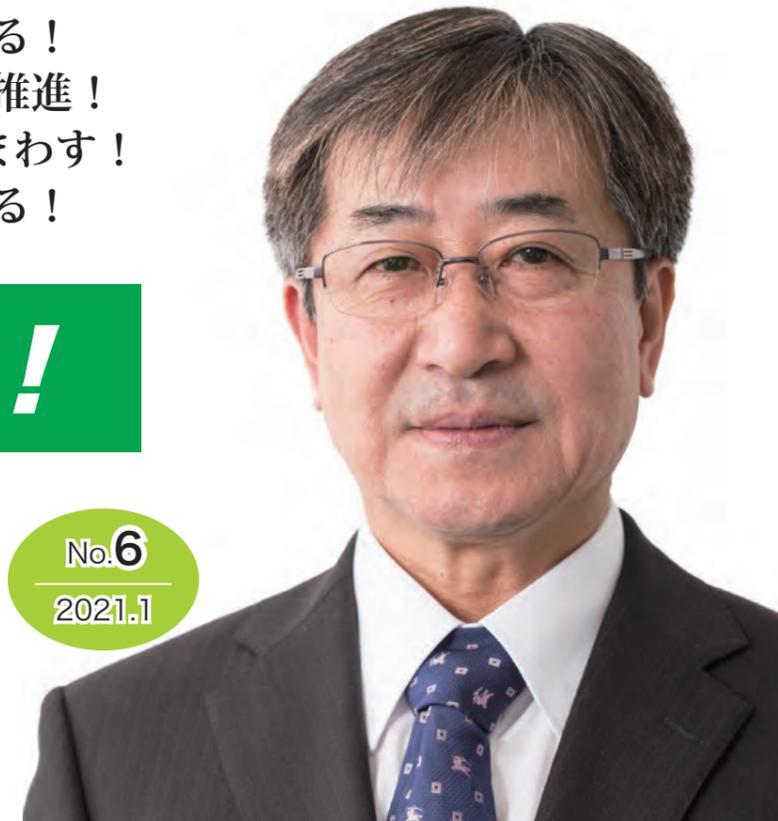
- ◆ 生活の足、地域交通をまもる！
- ◆ 心と体を育てる食育と農業推進！
- ◆ 地消地産で、地域の経済をまわす！
- ◆ 町のことは、みんなで決める！

新しい風を！

光吉ひとし

No.6
2021.1

町政レポート



皆さんと一緒に、こんな町をつくりたい！

2017年に町議に当選させていただき、その後、議会では毎回14回の質問を行いました。その中で見えてきた鏡野町政の改善すべき点や私からの提案についてお伝えします。すぐに取り組めることはたくさんあります。未来について積極的に語り、実現していきましょう。

住みやすい町＝持続可能な町を作る！

少子化、過疎化は重要な課題ですが、特効薬のような解決策はありません。住み続けることのできる町を、みんなの力をあわせて作ろうとすること、これ自体が住みやすい町、人の集まる町につながります。

中国地方の各地でもそのための試行錯誤が行われ、成果も生み出されています。新型コロナがきっかけとなり、若い人の田舎への移住は今後も続いていきます。

しっかりと先進事例に学び、鏡野町にあった方策を生み出していきます。

*こんなことを提案してきました

- ：「小さな拠点」作りへの積極的な取り組み
- ：「ふるさと住民票」の導入で関係人口を増やそう
- ：移動スーパー・移動図書館などの取り組みを生かす
- ：公共交通の充実
- ：高齢ドライバーによる交通事故対策
- ：所有者不明土地対策
- ：ペスタロッツのイヴェルドン市との中山間地対策、農業、林業での交流を

町のことは、みんなで決める！

鏡野町を誰にとっても住みやすくするためには、行政だけの力ではできません。町民の皆さんの知恵と力が必要です。町がつくる計画や情報を町民に積極的に伝えて、活用してもらったり、町民の皆さんと対話することが大事です。

私が議員になった時は、町のHP（ホームページ）には「総合計画」くらいしか公開されておらず、町政について基本的なことを調べることもできない酷い状況でした。その後、さまざまな計画の公開を求め、その多くを実現してきました。

町のことは、みんなで決める。そのために、さらなる情報公開と対話に積極的に取り組みます。

*こんなことを提案してきました

- ：中学生でもわかる予算書の作成
- ：予算書のHPへのアップ
- ：予算編成課程への住民参加
- ：町民の意見を聞くパブリックコメント条例の策定
- ：住民参加の「事業仕分け」の実施

あと10年！気候危機に立ち向かう！

地球温暖化や気候危機について、真剣に取り組む姿勢をほとんど感じない答弁が町議会では続いてきましたが、ようやく政府も「2050年温室効果ガス実質ゼロ」を表明しました。

全国各地で相次ぐ異常気象と大規模災害。このまま問題を放置すれば、2030年には「後戻りのできない分岐点」に至ると、国連も警鐘を鳴らしています。子どもや孫の世代に、安心して暮らせる自然環境を残すのは、私たちの責務です。鏡野町は県内では二つだけの「永続地帯」（電気などのエネルギーや食糧を100%以上自給できる地域）です。自然の資源に恵まれた鏡野町は、気候危機に立ち向かう最先頭に立つべきです。

*こんなことを提案してきました

- ：「永続地帯」をまちづくりの核として活かそう
- ：温暖化防止計画の早期策定を
- ：住宅2020年省エネ基準の達成を目指す
- ：ゴミ減量化、プラスチックゴミ対策の強化を
- ：農業用プラスチックの対策を
- ：コロナからの回復は「グリーンリカバリー・緑の回復」で

光吉ひとしの素顔 シリーズ



鏡野町はあはらしい自然がいっぱい！



写真提供・江田弘良氏

小さな拠点：商店、診療所など不可欠な施設や地域活動を行う場所を集約し、周辺集落とコミュニティバス等で結ぶことで、地域の再生を目指す。
ふるさと住民票：仕事、介護、災害などで、複数の自治体と関わる人たちが増えている。その人たちに自治体の情報等を提供し、つながりを強め、その知恵や気持ちを地域づくりにいかす。